

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2775502194		
法人名	医療法人 幸晴会		
事業所名	こうせい苑グループホーム		
所在地	大阪府八尾市北木の本5-6-1		
自己評価作成日	平成 29年 8月 15日	評価結果市町村受理日	平成 29年 10月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2775502194-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 9月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が笑顔で表情が穏やかです。ねと外部訪問者からよく言って頂きます。ご家族様も協力的で色々な行事にひ孫様も一緒に参加して下さい。積極的に参加して下さい。ご利用者様・ご家族様の生活を守る為、母体の医療法人幸晴会と連携を密に取り安心して頂ける環境にあります。
ご利用者様の重度化に伴い以前のように出来ない部分もありますが、ウッドデッキにて手作りの桜の木を作りお花見をしたり、2階3階の皆様がいつでも笑顔で交流出来るよう一緒に昼食を摂ったりもしています。又、ご利用者様に質の高いサービスを提供出来るよう、職員は日々研鑽・勉強会にて専門性の向上に努めています。こうせい苑の理念を念頭に置き、丁寧な言葉使いやご利用者様を尊重し寄り添う介護を実践しましょうを合言葉に、皆で声を掛け合い日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に貢献している医療法人を母体とした開設13年目のグループホームです。法人開設者である前理事長の「在宅の利用者の24時間を何とかフォロー出来ないか」という理想を職員の課題に掲げて「医療から介護へ」「施設から在宅へ」と幹部・職員一丸となって地域の様々なニーズに応えるような事業展開を進めてきています。母体の医療法人との連携は、利用者・家族の大きな信頼と安心に繋がっています。ホームは地域ボランティア、家族の協力で多くの行事を実施していますが、利用者は「忙しくて病気をしている暇がない」「食事が美味しい」「ちぎり絵はまかせておいて」と笑顔で楽しい時間を過ごしています。ホーム長は「職員が『明るくチームワークがよくて働きやすく介護は大変だけどここなら頑張れる』と思えるような風通しのよい職場づくり」を心がけています。職員は「笑顔と安心」を大切にした支援に努め、幹部は「職員の努力のたまものです」と誇らしげにしながらも真摯に事業に向き合っているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員の休憩室に掲示し、日常の中で振り返り意識を持つよう心掛けています。	ホーム長や職員は、理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。法人理念の基に「目配り・気配り・心配りの『個別・自立支援』、優しく・親切・丁寧で『その人らしさを尊重』、地域と和合して『安全・安心』」をホーム理念と明記しています。法人理念は玄関入口や各ユニット事務所に掲示しています。ミーティングや研修時に理念の確認を行う等、職員間で共有してサービスの実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1年に1回のふれあいまつりに参加している。保育園の行事にも案内を頂き出席している。また図書館を利用したりしている。	ホーム理念である「地域と和合して『安全・安心』」を基に、四季を感じられるような行事や、地域の保育園児の訪問、大正琴・コーラス・アニマルセラピー等複数の地域ボランティアとの交流を積極的に取り入れています。また、ホームの見学や家族介護教室の開催を通じて、ホームの役割や認知症についての講義を行い、情報の発信に努めています。地域のコミュニティセンターで開催される「グループホーム展」に、利用者の作品を出品しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症の人の理解や接し方、入居者様の暮らしをお話しさせて頂き、質問にも答えている。 中学生の職業体験の受け入れも行ない、理解や体験をしてもらっている。ボランティアの皆様にはコミュニケーションを通して理解を深めて頂いている。 家族介護教室で認知症についての講義・質疑応答など行い発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開催している。行事報告、入居者様の状況や委員からの意見を頂きより良いサービスの向上に努めている。	ホームでは、運営推進会議規則を作成し、2ヶ月に1回開催しています。参加者は、利用者・利用者家族・高齢クラブ代表・高齢者安心センター職員・ホーム職員です。会議では、サービスや行事の実施状況等の報告を詳細に行い、参加者との質疑応答及び意見交換を通じてサービスの質の向上・確保に活かしています。今後は、非常災害時における地域との協力体制について話し合いを行う予定です。運営推進会議の議事録は、職員に回覧し内容の共有化を図り、また家族に送付しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し、事業所内の内状況を積極的に伝えご理解頂けるようにしている。事業者連絡協議会や施設サービス事業者部会に参加し情報交換と連携を図っています。	市の担当課とはいつでも相談できる関係にあります。高齢者安心センター職員とは、運営推進会議において報告、相談をして、情報提供や助言を得ています。法人本部長・ホーム長は、市主催の事業者連絡協議会や施設サービス事業者部会等に参加して情報交換等を行い、連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが日中時間を決め解放している。今後も入居者様の状態を見ながら日中解除に向けて取り組んでいきたい。身体拘束をしないケアでは事業所内に身体拘束排除宣言を提示している。また、内部研修や外部研修を受講し取り組んでいる	職員は、法人内部研修や伝達会議で身体拘束廃止について学びながら、身体拘束を行わないケアを実践しています。ホームでは、職員による十分な見守りが可能な昼間の時間帯はエレベーターの暗証番号を解除し、施錠しないケアにも取り組んでいます。外出希望のある利用者については、職員の見守りと付き添いで対応しています。2階にはリビングや廊下から続いているテラスがあり、開放感いっぱいの広いウッドデッキとなっています。椅子やテーブル、季節の花の鉢植えを置き、利用者と職員は自由に出入りをして洗濯物干しや外気浴、植物観賞、お茶や行事、家族との団らんの場として楽しんでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し職員全員学ぶ機会を作っている。日々の生活の中で身体の確認、報告を行い職員間で情報を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修や外部研修に参加し制度の理解に努めている。実際に利用されている方がおられ、その方の擁護者と日常的に関わり共に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が十分な時間を取り、説明や話し合いを行なっている。諸々改定がある場合や利用料に変化がある時なども丁寧な説明に努め、ご同意頂くようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、面会簿にもご意見欄を作っている。運営推進会議に入居者様、ご家族様等に参加して頂き意見、要望を聞いている。面会時や計画説明時等にも家族様の意見を聞いている。	ホームでは、自治組織「白百合町会」があり、利用者一人ひとりの意見や思いを伝えられる環境を整えています。ホームの玄関には、意見箱や面会箱を設置しています。面会簿には意見・要望を記入する欄を設けており、寄せられた意見や要望等は、全体会議等で速やかに話し合い、反映させています。職員は、日頃から些細なことでも利用者や家族に相談や報告をしています。家族交流会や運営推進会議では、意見や要望等を出せるよう積極的に働きかける工夫をし、相互に気兼ねなく話せる関係性の構築に努めています。また、ホームでの暮らしぶりが伝わる写真入りの季刊誌や、利用者一人ひとりの近況報告についての手紙を定期的に発行し、より信頼関係が深まるよう取り組んでいます。食事の面で利用者からの要望があり、法人を含めた検討を行い、改善に繋がった事例があります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に入居者様の立場で考え、意見や要望などいつでも発言出来る関係作りを日頃より行なっている。管理者は常時意見を聞き、職員が働きやすくなるよう提案している。各事業所で対応が違っていた事も訴え改善に向かっている。	ホーム長は、月に1回全体会議を開催し、職員が意見や要望を出せるようにしています。会議では、月間行事や業務について法人や各部会からの報告を行い、外部研修に参加した職員による伝達研修も実施するなどしています。またワーカー会議では、昼食時間を変更することで職員の休憩時間が取れるように工夫をするなど、職員間には自由に意見を表出できる雰囲気があります。ホーム長は、職員が意見を表出しやすいように心がけています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	より良い職場の環境は利用者様にも通じる事。運営規定など随時見直し働きやすい環境の整備に努めてくれている。 年2回のセルフチェックシートによる自己評価後管理者が一人ひとり面談し、向上心を持って働けるようコミュニケーションを取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人紹介による割引制度や資格取得促進制度もあり働きながらのトレーニングが出来る環境にある。 又、資格取得の為の対策講座も行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通じ外部同業者との繋がりをもちお互いの意見交換が来ている。 八尾市介護保険事業所連絡協議会、大阪認知症グループホーム協議会に加入し、研修会・勉強会・会議等で意見交換し、サービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にその方の情報を把握し入居時に気付いた事を記録し職員全員統一した 対応ができるようにしている。また、不安な事など会話から汲み取り安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や計画説明時に本人の様子を伝え家族様の思い、要望等を聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずその時何を必要としているか見極め本人、家族の思いも感じ取るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはして頂いています。食器拭き、拭き掃除は本人の調子を見てやって頂いています。また、入居者様同士で助け合い共同生活を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	半年に一回近況報告を出し共に本人を支えていく関係を築いています。また、家族様の訪問時には入居者様と楽しく過ごして頂けるよう心がけています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人様には気軽に訪問してもらえる雰囲気作りに努めています。	退居された利用者の家族から職員一人ひとりに暑中見舞いが届いたり、家庭菜園でカボチャに「ありがとう こうせい苑」と文字を刻んで育て、大きくなったものを利用者、職員に届けに来られたりすることもあります。職員は、馴染みの関係が途切れないような支援を大切にしています。家族の協力で墓参りや喫茶店に出かける利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとり個性を把握しチームの配置を考えています。また、相性が合わない様子が見られる時は職員が間に入って対応し共に生活出来るよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族の方が毎年夏祭りのお手伝いに来てくれている。契約が終了しても気軽に来苑できる関係を心がけている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回の「白百合町会」を開催し日々の暮らしをしたいか、行事等を話合っています。意思疎通が困難な方は表情や日々の行動から汲みとっています。少しでも本人の思いに添えるよう検討しています。	計画作成担当者は、利用者・家族から入居時に一人ひとりの思い、意向を把握し介護計画に活かしています。入居後は、暮らしの状況と支援経過を丁寧に記録することで、利用者一人ひとりの思いを汲み取るようにしています。ホーム長・職員は、利用者の思いや意向に更に沿えるよう、職員が気づいた利用者の声や表情の変化から読み取った希望や思いを「モニタリング・カンファレンス」ファイルに丁寧に記載し把握しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴をご本人やご家族様から話を聞き日々会話の中でも情報収集の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの様子を記録に残している。日々の生活の中で観察し情報を収集して職員同士で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3～4ヶ月に1回の見直しをしています。モニタリングも毎月行っています。常に入居者様と関わり情報収集に努め、意見を出し合い介護計画に反映しています。	介護計画は3～4ヶ月に1回の見直しをしています。モニタリングは毎月行っています。モニタリングチェック表、介護記録を丁寧に記載することで利用者の思いや要望を汲み取っています。モニタリングは毎月、利用者一人ひとりに対して、職員全員が意見を記入しています。それに沿って計画作成担当者が介護計画に反映させています。変化のあった時、統一したケアが必要な時には、家族や看護師の意見を求めて都度計画の見直しを行っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務開始前に必ず連絡帳に目を通し、身体的状況、排泄状態も確認しています。日々の様子や変化や気づきなどは記録し職員間で情報や共有をはかり介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方を支える為に必要な事であれば柔軟に色々な方法を考え対応する努力をしようと思っている。常勤は喀痰吸引の資格を取り必要に応じて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアが訪問して下さり色々な出し物をしてくれている。入居者様もとても喜んでおられ、楽しむ時間を持っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の確認をし、ご本人や家族様が望まれる対応をしている。また、定期健診、随時の受診も行っている。又、専門以外の受診が必要となった場合は家族様と行かれたり、訪問診療も受けられるよう支援している。	ホームでは、利用者がかかりつけの医師や家族の希望する医療機関で受診できるよう支援しています。夜間や緊急時への24時間オンコール体制が整っており、利用者・家族、職員の安心に繋がっています。月曜日から日曜日まで毎日主治医の往診と看護師の訪問があり、管理者は主治医との関係を密にし、指示を得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており毎日訪問看護師に入居者様の状態を報告し指示・助言を頂き安全に努めている。 受診が必要な場合は家族と連絡をとり受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院にて家族と病院関係者との話し合いに同席し今後の話し合いや情報収集を行っている。また、入院した際安心して療養できるよう情報を提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「緊急時及び重度化した場合における対応にかかる指針」を定め、入居時には「本人による同意または家族の推定する本人の意思に関する確認書」を説明し、気持ちを聞きあっている。 家族の意向を聞き、入居者様の状態変化に応じてその都度話し合いをし取り組んでいる。	入居時に利用者・家族へ「緊急時及び重度化した場合における対応にかかる指針」を説明し、同意書を交わしています。利用者が重度になった場合、再度意向を確認し、医師や看護師と連携を取りながら希望に沿った支援を行っています。ホームでは多くの職員が喀痰吸引資格を持っています。母体医療法人との24時間オンコール体制が整っていることは利用者・家族、職員の安心に繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について応急手当や初期対応の訓練の研修を受けている。また急変時の対応のマニュアルを事務所に貼りだしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災に備えて訓練を定期的に行っており、消防点検も受けている。備蓄品も倉庫に備蓄し食品の期限は事務所に貼り確認している。 年2回の避難訓練を実施し2か月毎に一緒にできる利用者様と避難経路確認を行っている。また、内部研修でも学んでいる。	ホームでは、防災対策マニュアル・風水害マニュアルを作成しています。災害時における避難誘導についての文書を掲示しています。年2回の避難訓練を実施し、1回は消防署の指導を受けています。また、2ヶ月ごとに避難経路の確認を実施しています。運営推進会議にて、火災避難訓練の実施報告をしています。備蓄については、水・食料品等を保管し、期限は事務所に掲示して管理しています。平成29年3月に八尾市長より「火災予防の重要性を深く認識され積極的に防火対象物の安全管理と職場の防災意識に努められた功績は誠に顕著である」と表彰状・記念品の授与がありました。	
Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様のできることを引き出しできるだけ自立できるように、目配り、気配り、心配りを忘れずその人らしさを尊重し入居者様のプライバシーを損ねないよう心がけています。	職員は法人研修や施設内勉強会において「法令遵守・倫理」「高齢者虐待防止」「接遇」等に関する研修を受け、意識の向上に努めています。職員の言葉かけは優しく丁寧で、利用者一人ひとりのプライバシーを損ねないよう配慮した態度で支援をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	日常生活の中で思いや願いを聞き、又表情や言葉をしっかり感じとり自己決定をしてもらえるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを大切にし体調や気分に合わせて暮らせるよう支援している。皮膚の状態、座位姿勢が不安定な方は午前、午後臥床して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は家族様が持って来てくれる。自分で洋服を選んで着替える方もいるが出来ない方もいるので職員が体に合った着やすい服を選ばせて頂いています。訪問美容も利用し毛染め・カット・顔そり等をしてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の給食事業部から食事が届けられる。配膳、下膳、食器拭き、テーブル拭き等は入居者様ができる範囲で行っています。	食事は、法人内の給食事業部から3食届きます。おやつについては、利用者と職員と一緒に買い物へ行きます。職員は、利用者の体調やタイミングを見計らい、配膳や下膳等の役割を協力しながら、準備から片付けまでを利用者と一緒に行っています。ホームのテラスでバーベキュー、家族交流会では家族と一緒におやつ作り、敬老祝賀会では松花堂弁当、家族と一緒に外食等、利用者の楽しみと喜びにつながっています。食事の風景は、利用者と職員がテーブルを囲んで同じ食事を摂り、利用者同士また利用者と職員が会話を楽しんでいます。職員は、利用者が安全で安心して食事がより楽しみなものになるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態、量など本人の状態に合わせて食べやすく提供しています。特に夏は熱中症にならないよう多めに水分を摂取して頂いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い自分で出来る方には見守りで対応している。又介助の方は臥床した時職員が口腔ケアを行っている。清潔保持の為、義歯の方は夜間洗浄液に浸けている。定期的に訪問歯科が往診に来られる方もおられる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で確認し尿意の無い方でも時間を見計らってトイレに付き添っています。夜間安全確保の為居室でポータブルトイレを使用している方もおられます。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、様子を観察しながら支援を行っています。原則トイレで排泄ができることを意識しながら支援しています。オムツやパッド使用の利用者には清潔保持のため朝晩に洗浄の支援も行っています。新人研修では「排泄支援」、一般職員には「便秘解消の秘訣」「介護予防」などの研修を行い、スキルアップを図っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量を把握している。又、腹部マッサージ等を行っている。看護師とも相談しその方に合った便薬を処方してもらい、排便の状態、回数を把握し調整し予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の間隔があいた方から声を掛けさせて頂いている。浴後のケアも本人に合わせて行っています。季節感のある入浴を楽しんで頂いています。	基本は2日～3日に1回の入浴を実施しています。重度化によって入浴が難しい場合は足浴、清拭、シャワー浴等でできるだけ気持ちよく過ごしていただける工夫をしています。入浴を好まない利用者には時間をかけてさりげなく根気よく声かけのタイミングを計っています。季節のゆず湯やしょうぶ湯で入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は他者と会話を楽しんだりテレビを観たり、ラジオ体操を行い体を動かしてもらい安心して眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示により服薬しています。現在は薬局で管理してもらい、説明書はファイルに保管し変更があればその都度差し替えています。また、連絡帳にも書き職員全員把握できるようにしている。確実な支援ができるよう錠剤が無理な方には、粉碎にするなど確実に服用できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好きな事をして頂いている。行事のポスター作りの貼り絵を熱心に行っている方もおられます。昼からはラジオ体操を行い気分転換をし、おやつを頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は介助する方が多く外出することが難しくなっているが、お花見はベランダで 手作りの桜のお花を見ながらお弁当を頂いたり1階の駐車場のお花を観たりし楽しんで過ごしています。	ホームでは、現在外出支援の機会が減ってきてはいるものの、その分利用者がホーム内に居ても「四季」を感じてもらえるよう、アイデアを出し合い、工夫を行う等積極的に取り組んでいます。また、家族の協力で一緒に外出をする利用者もいます。花見の時期にはドライブをしながら桜を鑑賞しています。参加できない利用者には、リビング中央に桜の木を創作し、ガーデンテラスからの景色で五感を刺激する等、さまざまな取り組みを行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室のタンスの中にお金を所有している方もおられます。買物に行った時にはお好きな物を購入されたりしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば、自由にやりとりができるように支援している。年賀状が家族様から届く方もおられます。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節に合わせた貼り絵などを配置し季節感を出し居心地の良い空間を心がけている。又行事等の写真や家族との写真を貼り思い出を楽しむ会話をしたりしています。	玄関を入るとリビング、ダイニングには季節を感じられる飾りや外出時の写真等が飾られ、温かみのある空間づくりがなされています。リビングは明るく、適温に保たれています。リビングや壁には利用者と職員のちぎり絵・手芸作品や行事の写真などを飾って、季節感やぬくもりを演出しています。食堂テーブルやソファークーナーではテレビを見たり、音楽を聞いたり、塗り絵やパズルをしたり利用者はそれぞれにゆったりと過ごしています。2階には広いテラスがあり、自然を感じられる工夫もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブルの他にソファもあり好きなところに座って頂き、気の合う入居者様同士で過ごされている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	他の入居者様と一緒に作った作品等を居室に飾ったり、ご家族様が持って来て下さった物を飾ったりし、ご本人が居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	居室入口には家族と利用者が作ったネームプレートを飾るなどして自室がわかるようになっています。ベッド、エアコン、洗面台、クローゼット、カーテンはホームが用意しています。入居時には、タンス、テレビ、時計、仏壇、家族の写真、鏡台、人形等それぞれの思い出の物を持ち込んで、自分で好きなように配置しています。利用者・職員手作りの作品や絵等を飾ったりして職員は居心地良く過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレにはわかりやすく名前を書いている。また、共用で使用する空間には、障害物を置かないよう安全な環境づくりに努めている。		